

第3章 札幌・釧路地域におけるフリーターへの経路と離脱

1. フリーターとしての認識

本章は、札幌・釧路地域（以下、北海道と呼ぶ）のフリーターへの経路と正社員への離脱について検討する。はじめにフリーター認識について検討し、フリーターへの経路と離脱について検討する。

一般にフリーターは、15-34歳で在学しておらず、女性は結婚していない、パート・アルバイト労働者をその定義としている。本章のフリーターの定義は本人の認識（フリーター経験があるかどうかを問うた項目）を用いている。これまでの東京調査では、一般的にフリーターと呼ばれている層と本人の意識はかなり重なっていたが、北海道ではどうだろうか。

男性のキャリア類型やこれまでの働き方の経験とフリーター認識のクロスを見てみよう（女性については、既婚後のパートと区別ができないため示していない）。

図表3-1は、男性のキャリア類型とフリーター認識について示したものである。しかし、正社員以外の他形態としてのみの経験の者でも、フリーターとしての認識は決して高くない。

図表3-1 キャリア類型とフリーター認識（男性）

キャリア類型	フリーター経験認識	N
正社員定着	0.0	91
正社員転職	2.1	48
正社員から非典型	65.0	20
正社員一時他形態	83.3	24
非典型一貫	63.8	80
他形態から正社員	57.1	49

正社員以外の働き方をしたことがあるというだけでは、自分がフリーターだという認識をもつわけではなさそうである。そこで図表3-2で、非典型雇用の経験のみを取り出し、フリーターとしての認識をみた。参考までに東京の数値も示した。非典型雇用の選択肢は、契約・嘱託、派遣社員、パート・アルバイトである。

図表3-2 非典型雇用の経験とフリーター認識（男性）

	北海道	東京
すべて経験	100.0	100.0
契約・嘱託+派遣	0.0	0.0
契約・嘱託+パートアルバイト	88.0	96.3
契約・嘱託のみ	0.0	17.1
派遣+パートアルバイト	60.0	100.0
パートアルバイトのみ	74.2	97.0
派遣のみ	0.0	38.5
いずれも経験なし	1.2	0.0

東京では、「契約・嘱託のみ」や「派遣のみ」でもフリーター経験と認識する割合が高いが、北海道はそうではない。北海道では、フリーターはパート・アルバイト労働者を意味しているようである。

この理由としては以下の点が推測される。北海道にある全国規模の大企業の支店や営業所で雇用される場合、かつては正社員としての雇用であったのが、契約社員への雇用へと変化していることが言われているという。そのため、契約社員のイメージが相対的に道内企業の雇用に比べて不安定とはいえないことがこうした認識を生んでいるようにも思われる。また派遣社員については、前章で見たように製造派遣で働く者が少なく、かつての事務職としての派遣労働者のイメージが強いため、フリーターとは見なされにくいのではないかと考えられる。

以上をふまえた上で、以下では、自分はフリーターを経験したことがあると認識している若者層についての分析を進めていく。なお今回、フリーターを経験したことがあると回答した北海道の若者は291名である。

2. フリーター経験の広がり

2006年の東京調査ではフリーターとしての経験がかなり広がっていたが、北海道ではどうだろうか。図表3-3によれば、北海道ではフリーターの経験率は男性が37.3%、女性は44.3%となっており、およそ3分の1がフリーターを経験したことがあると答えている。東京に比べるとどの年齢層でも低くなっている。なお第2章で見たように、非典型雇用全体の割合が東京よりも低いことを示しているわけではない。

学歴別に見ると、男性の場合、東京では高卒以下と高卒超（高等教育進学者）の差が明確であったが、札幌でも差はあるものの、東京と比べるとそれほど大きいとは言えない。女性は東京と同じように、学歴別の差が大きくなっている。

図表3-3 年齢別・学歴別フリーター経験率

	北海道	東京		北海道	東京
男性	37.3	**	女性	44.3	**
20-24歳	43.9	51.9	20-24歳	46.4	50.4
25-29歳	36.3	41.3	25-29歳	41.1	50.0
30-34歳	32.6	**	30-34歳	45.7	**
高卒以下	39.5	62.2	高卒以下	56.3	74.4
高等教育	35.3	37.5	高等教育	35.7	41.1
札幌	37.9	**	札幌	43.6	**
釧路	34.4	**	釧路	48.1	**

続いて社会的背景についてみると（図表3-4）、東京と同様に親学歴による違いはあまり見られなかったが、経済的豊かさについては差が見られた。

図表 3-4 経済的豊かさによるフリーター経験率の違い

	フリーター 経験	N
男 性	37.3	354
豊かである	29.6	27
やや豊かである	33.3	114
やや豊かでない	46.2	104
豊かでない	37.1	62
わからない	32.6	46
女 性	44.3	359
豊かである	32.3	31
やや豊かである	39.4	104
やや豊かでない	42.0	100
豊かでない	55.8	77
わからない	46.5	43

男性についてはそれほど明瞭ではないが、豊かである層、やや豊かである層でフリーター経験率が低く、やや豊かでない、豊かでない層で高くなっている。女性は豊かでないほどフリーターを経験する割合が高くなるという傾向がはっきりしている。

以上から東京と比較すると、全体としてフリーター経験率は低くなっているが、男性の場合学歴による影響はそれほどはっきりしないのに対して、女性は東京と同じように学歴によるフリーター経験率の差が大きくなっている。経済的豊かさの影響についても、女性においてよりはっきり出ていると考えられる。第2章において、離学直後の正社員比率と社会階層の関係について検討した際には明瞭ではなかったが、フリーター経験に限定して分析すると、特に女性において社会階層の影響がうかびあがってくる結果となった。

3. フリーターになる理由

次に、なぜフリーターになったのかについて尋ねた（図表 3-5）。複数回答で尋ねたところ、男女とももっとも多い理由は「自分に合う仕事をみつけるため」であり東京都の若者（男性：36.3% 女性：35.1%）と共通していた。また東京と差が見られたのが、「正社員として採用されなかったから」が、北海道では男性 19.5%、女性 29.5%と、東京の男性：11.8%、東京の女性 12.0%に比べると高いことが特徴であった。

年齢や学歴別に見ると、男性は若い時期には「つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として」が高いが、30代前半になると少なくなる。また高学歴者は「つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として」と回答する割合が高かった。

女性は年齢とともに「家庭の事情で」が高くなり、「自分に合う仕事を見つめるため」が低くなっている。また高等教育進学者では、「正社員として採用されなかった」がもっとも高い。

図表 3-5 フリーターになった理由

	仕事以外にしたいことがあるから	つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として	自分に合う仕事を見つけたため	正社員として採用されなかったから	学費稼ぎなど、生活のために一時的に働く必要があったから	なんとなく	正社員はいやだったから	家庭の事情で	自由な働き方をしたかったから	その他	合計
男性	17.1	28.5	31.7	19.5	22.0	22.8	4.1	1.6	13.8	5.7	123
20-24歳	15.2	32.6	32.6	19.6	21.7	17.4	6.5	0.0	15.2	2.2	46
25-29歳	22.9	37.1	28.6	20.0	20.0	20.0	2.9	0.0	8.6	0.0	35
30-34歳	14.3	16.7	33.3	19.0	23.8	31.0	2.4	4.8	16.7	14.3	42
高卒以下	14.8	18.0	32.8	19.7	26.2	26.2	6.6	1.6	19.7	8.2	61
高等教育	19.7	39.3	29.5	19.7	18.0	19.7	1.6	1.6	8.2	3.3	61
女性	14.8	18.1	29.5	20.8	19.5	23.5	7.4	17.4	22.1	12.1	149
20-24歳	11.1	19.4	50.0	13.9	19.4	41.7	5.6	8.3	30.6	13.9	36
25-29歳	16.7	20.8	29.2	31.3	12.5	25.0	10.4	8.3	14.6	8.3	48
30-34歳	15.4	15.4	18.5	16.9	24.6	12.3	6.2	29.2	23.1	13.8	65
高卒以下	18.3	13.4	29.3	11.0	17.1	26.8	3.7	22.0	30.5	9.8	82
高等教育	10.4	23.9	29.9	32.8	22.4	19.4	11.9	11.9	11.9	14.9	67

フリーターになった最大の理由は（図表 3-6）、「つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として」が男性では多い。女性は目立った項目はなく分散しているものの、「自分にあう仕事を見つけるため」「なんとなく」「家庭の事情で」が上位に位置している。

年齢別には、男性では「つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として」は若い層に多く見られる。女性では年齢が上がると「家庭の事情で」が増加する。

学歴別には、男性では高学歴者は「つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として」が、女性高学歴者では「正社員として採用されなかったから」が高くなっている。

図表 3-6 フリーター最大理由

	仕事以外にしたいことがあるから	つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として	自分に合う仕事を見つけたため	正社員として採用されなかったから	生活のために一時的に働く必要があったから	なんとなく	正社員はいやだったから	家庭の事情で	自由な働き方をしたかったから	その他	無回答	合計
男性	9.8	22.7	12.9	9.8	13.6	9.1	0.8	1.5	3.8	5.3	10.6	132
20-24歳	12.0	26.0	14.0	10.0	12.0	8.0	2.0	2.0	2.0	2.0	10.0	50
25-29歳	10.8	29.7	8.1	8.1	13.5	10.8	0.0	0.0	5.4	2.7	10.8	37
30-34歳	6.7	13.3	15.6	11.1	15.6	8.9	0.0	2.2	4.4	11.1	11.1	45
高卒以下	12.1	13.6	10.6	12.1	12.1	10.6	1.5	1.5	7.6	7.6	10.6	66
高等教育	7.7	32.3	13.8	7.7	15.4	7.7	0.0	1.5	0.0	3.1	10.8	65
女性	8.8	6.9	12.6	10.7	11.3	11.9	0.0	11.9	8.2	8.8	8.8	159
20-24歳	10.3	7.7	15.4	7.7	12.8	17.9	0.0	0.0	15.4	7.7	5.1	39
25-29歳	7.8	9.8	11.8	13.7	9.8	15.7	0.0	5.9	3.9	9.8	11.8	51
30-34歳	8.7	4.3	11.6	10.1	11.6	5.8	0.0	23.2	7.2	8.7	8.7	69
高卒以下	10.6	4.7	11.8	7.1	10.6	14.1	0.0	12.9	10.6	7.1	10.6	85
高等教育	6.8	9.5	13.5	14.9	12.2	9.5	0.0	10.8	5.4	10.8	6.8	74

図表 3-7 東京におけるフリーター最大理由

		仕事以外に したいこと があるので	つきたい仕 事への準備 や勉強をす るため	つきたい仕 事の就職機 会を待た るため	つきたい仕 事がアルバ イト・パー トでできる から	自分に合う 仕事を見つ けるため	正社員とし て採用され なかったか ら	学費稼ぎな ど、生活の ために一時 的に働く必 要があった から
全体	2001	6.6	7.3	6.8	1.7	21.9	6.4	13.8
	2006	13.5	15.9			19.1	7.1	9.4
男性	2001	8.3	7.0	5.8	0.1	24.1	5.0	15.5
	2006	15.4	18.2			20.4	6.6	10.4
女性	2001	4.9	7.7	7.8	3.2	19.6	7.8	12.1
	2006	11.6	13.6			17.8	7.6	8.4

		なんとなく	正社員はい やだったか ら	家庭の事情 で	自由な働き 方をした かったから	その他	無回答	計
全体	2001	8.8	3.0	2.5	14.9	3.4	2.8	100.0
	2006	12.6	2.0	4.8	9.9	5.1	0.4	100.0
男性	2001	9.7	1.1	2.6	12.6	5.2	2.9	100.0
	2006	14.4	1.6	1.4	7.6	3.6	0.2	100.0
女性	2001	7.9	4.9	2.5	17.3	1.7	2.6	100.0
	2006	10.8	2.4	8.2	12.2	6.6	0.6	100.0

資料出所：労働政策研究・研修機構（2006）

次に、これらの回答をもとにしたフリーター3類型について分析する。

東京都において第1回調査の分析を行なった調査研究報告書No.146（日本労働研究機構2001）において、「フリーターになった契機」「フリーターになった当初の意識」に着目し、類型化を試みてきた。ヒアリング調査から導き出された知見をもとにしたフリーター3類型は、次のようなものである（数値は東京調査による）。

- (a) 夢追求型 仕事以外にしたいことがあるため、当面の生活の糧を得ることを目的にフリーターになったタイプ。第1回調査 14%→第2回調査 25%（男性 26.3%、女性 22.6%）
- (b) モラトリアム型 やりたいことを探したい、正社員になりたくないなどの理由からフリーターになったタイプ。第1回調査 47%→第2回調査 44%（男性 44.3%、女性 43.9%）。
- (c) やむを得ず型 正社員になれない、または家庭の事情などで、やむなくフリーターになったタイプ。第1回調査 39%→第2回調査 31%（男性 29.0%、女性 33.5%）。

類型の作成については、2001年東京調査と同様の手順で行なった。なおすべての多重回答を用いているわけではないため、無回答に分類される者がおり、類型に分類されたのは、男性で110名、女性で146名となった。まず選ばれた選択肢によって分類したが、相互に矛盾すると思われる回答については、回答間の関連を検討し、2001年東京調査、2006年東京調査と同様のシンタックスを用いて類型を作成した。

図表 3-8 フリーター 3 類型

	夢追求型	モラトリアム型	やむを得ず型	合計	N
男性	21.8	37.3	40.9	100.0	110
20-24歳	18.6	39.5	41.9	100.0	43
25-29歳	31.0	34.5	34.5	100.0	29
30-34歳	18.4	36.8	44.7	100.0	38
高卒以下	17.9	35.7	46.4	100.0	56
高等教育	26.4	37.7	35.8	100.0	53
女性	17.1	32.9	50.0	100.0	146
20-24歳	13.5	51.4	35.1	100.0	37
25-29歳	20.0	33.3	46.7	100.0	45
30-34歳	17.2	21.9	60.9	100.0	64
高卒以下	19.2	37.2	43.6	100.0	78
高等教育	14.7	27.9	57.4	100.0	68

フリーター 3 類型をみると（図表 3-8）、男性では「モラトリアム型」「やむを得ず型」がほぼ同率だが、女性は「やむを得ず型」が半数を占めていた。東京都においては、2回の調査ともモラトリアム型がもっとも多く半数を占めていたが（図表 3-9）、北海道では男性でもやむを得ず型が4割、女性では半数にのぼる。ここでも北海道の女性が厳しい状況に置かれていることが映し出されているように思われる。

図表 3-9 東京都のフリーター 3 類型の分布

	夢追求型	モラトリアム型	やむを得ず型	合計	N	
男性	18-19歳	17.8	49.3	32.9	100.0	73
	20-24歳	26.8	47.4	25.8	100.0	190
	25-29歳	29.0	39.4	31.6	100.0	193
	計	26.3	44.3	29.4	100.0	456
女性	18-19歳	24.6	41.5	33.8	100.0	65
	20-24歳	22.7	46.5	30.8	100.0	172
	25-29歳	22.0	42.4	35.6	100.0	205
	計	22.6	43.9	33.5	100.0	442

資料出所：労働政策研究・研修機構（2006）

「夢追求型」が一定数を占めているのは、札幌が今回の調査対象の中心地であったことの反映であると考えられる。すなわち、何か仕事以外にやりたいことがある場合、北海道の若者はまず札幌にでてくるケースが多いため、北海道に「夢追求型」の若者が多いのではなく、札幌に特にこうしたタイプの若者が集まりやすい傾向があるものと解釈できよう。もっとも第2章の分析（図表 2-28、29）によれば、東京のようにミュージシャンや女優などを目指す積極的な「夢追求型」がそれほどたくさん「夢追求型」に含まれているわけではないようであるが、これ以上の分析は出来ない。

年齢による変化を見ると、男性は「モラトリアム型」が年齢とともに減少しており、また「やむを得ず型」が30代前半で多くなっている。女性は「モラトリアム型」が年齢とともに

減少するのは男性と共通しているが、「やむを得ず型」は年齢とともに増加しており、30代前半女性では60.3%にのぼっている。

学歴別に見ると、男性では高卒以下の若者の「やむを得ず型」の割合が、女性では高等教育進学者の割合が高くなっている。

ではフリーター経験者は、学校を離れるとき（卒業時ないしは中退時）にどのような状況であったのだろうか。

図表3-10は、フリーター経験者に限って、学校を離れた直後の状況について尋ねたものである。半数がパート・アルバイトとして離学しており、正社員として離学した者は3分の1にも満たない。キャリア類型については、第2章で詳しく整理されているが、ここからも、フリーター経験者は学校を離れるときにすでに不安定な状況にあった者が多いことがうかがえる。

図表3-10 フリーター経験者の初職の状況

	正社員	公務員	契約社員・嘱託	派遣社員	パート・アルバイト	自営業・自由業	家族従業者	無職で仕事を探していた	無職で公務員・教員などの資格試験準備	無職で進学・留学などの準備	特に何もしていな い・迷っていた	その他	無回答	合計	N
男性	28.0	0.0	2.3	1.5	50.8	0.0	1.5	3.8	2.3	3.8	3.8	1.5	0.8	100.0	132
女性	29.6	0.6	8.2	1.9	47.2	1.3	0.0	5.0	1.3	0.6	1.3	3.1	0.0	100.0	159
合計	28.9	0.3	5.5	1.7	48.8	0.7	0.7	4.5	1.7	2.1	2.4	2.4	0.3	100.0	291

それでは、フリーター経験者のうち、初職が正社員（公務員含む）以外の状況であった者は、何もしないために不安定な状況に至ったのだろうか、その活動状況についてみた（図表3-11 複数回答）。民間企業の応募をした者が男性で57.9%、女性で66.7%に達している。男性では公務員試験・教員試験など資格試験の準備という回答も少なくない。他方で何も活動しなかった割合は男性で17.9%、女性で21.6%にとどまっており、在学中に何も活動しなかったためにフリーターになった者の割合は決して多くはなかった。

図表 3-1-1 フリーター経験者で、初職が正社員以外であった者の卒業時の活動

	民間企業への応募	進学・留学を希望しての受験	公務員試験・資格試験の準備	無活動者比率※	N
男性	57.9	11.6	16.8	17.9	95
女性	66.7	9.0	8.1	21.6	111

※3つの選択肢に無回答だった者の割合

次にフリーター期間について分析してみると（図表 3-1-2）、30代を超えると3年を超える者が男性では3分の1、女性では半数を占めるようになる。また男女とも、学歴が高い方がフリーター期間は短い。

図表 3-1-2 フリーター期間

	6ヶ月以内	7ヶ月から1年	1年から2年	2年から3年	3年以上	計	合計
男性	18.0	13.5	29.3	18.0	21.1	100.0	133
20-24歳	13.7	13.7	41.2	25.5	5.9	100.0	51
25-29歳	24.3	16.2	21.6	10.8	27.0	100.0	37
30-34歳	17.8	11.1	22.2	15.6	33.3	100.0	45
高卒以下	10.4	10.4	37.3	19.4	22.4	100.0	67
高等教育	26.2	16.9	21.5	15.4	20.0	100.0	65
女性	14.0	15.3	18.5	12.7	39.5	100.0	157
20-24歳	15.8	21.1	28.9	13.2	21.1	100.0	38
25-29歳	24.0	16.0	10.0	14.0	36.0	100.0	50
30-34歳	5.8	11.6	18.8	11.6	52.2	100.0	69
高卒以下	8.3	11.9	22.6	13.1	44.0	100.0	84
高等教育	20.5	19.2	13.7	12.3	34.2	100.0	73

無回答省略

続いて、フリーター経験者がフリーター経験をどのように評価しているのかについてみよう（図表 3-1-3）。

「いろいろな経験をすることができた」がもっとも多く、男女とも6割を超えている。また「人間関係に関する能力（人とうまく話せるなど）が身についた」が上位に来ているのも男女共通である。また学歴別に見ても、この2つが上位である。

「将来に不安を感じた」、「正社員に比べて収入が少なかった」、「社会的に認められていないと思った」という項目も上位にあり、東京調査に比べて高くなっている。

図表 3-13 フリーター経験評価

	やりたい仕事に直接役立つ能力が身についた	アルバイト先から急に日数を減らされたり、来なくていいといわれて困った	アルバイト先がなかなか見つからなくて困った	やりたい仕事に就くための人脈やチャンスを得た	人間関係に関する能力(人とうまく話せるなど)が身についた	やりたい仕事のはっきりした	将来に不安を感じた	いろいろな経験をすることができた	社会的に認められていないと思つた	生活が不安定だった	自由な時間が持てた	正社員に比べて収入が少なかった	合計
男性	24.6	9.2	14.6	14.6	48.5	20.0	52.3	63.8	23.8	34.6	36.9	47.7	130
20-24歳	30.0	4.0	12.0	22.0	54.0	20.0	52.0	70.0	26.0	36.0	42.0	42.0	50
25-29歳	13.5	13.5	13.5	8.1	40.5	18.9	54.1	54.1	24.3	43.2	43.2	62.2	37
30-34歳	27.9	11.6	18.6	11.6	48.8	20.9	51.2	65.1	20.9	25.6	25.6	41.9	43
高卒以下	17.2	12.5	15.6	14.1	46.9	15.6	56.3	64.1	25.0	32.8	32.8	46.9	64
高等教育	32.3	6.2	12.3	15.4	50.8	24.6	47.7	63.1	21.5	35.4	41.5	47.7	65
女性	19.7	8.9	9.6	10.2	47.8	19.1	37.6	65.0	15.9	29.9	40.1	53.5	157
20-24歳	23.7	7.9	7.9	7.9	50.0	13.2	36.8	60.5	5.3	28.9	31.6	47.4	38
25-29歳	14.0	8.0	10.0	8.0	52.0	26.0	52.0	62.0	18.0	32.0	38.0	58.0	50
30-34歳	21.7	10.1	10.1	13.0	43.5	17.4	27.5	69.6	20.3	29.0	46.4	53.6	69
高卒以下	19.0	8.3	8.3	14.3	42.9	19.0	27.4	66.7	10.7	26.2	47.6	50.0	84
高等教育	20.5	9.6	11.0	5.5	53.4	19.2	49.3	63.0	21.9	34.2	31.5	57.5	73

無回答省略

図表 3-14 東京のフリーター経験評価

	やりたい仕事に直接役立つ能力が身についた	急に日数を減らされたり、来なくていいといわれて困った	アルバイト先がなかなか見つからなくて困った	人間関係に関する能力(人とうまく話せる等)が身についた	やりたい仕事にはっきりした	将来に不安を感じた	
計	20.8	5.6	10.6	14.4	41.9	15.6	34.9
男性	18-19歳	16.7	3.8	15.4	9.0	32.1	20.5
20-24歳	17.9	4.8	11.6	14.0	44.0	15.5	33.3
25-29歳	25.2	7.0	7.9	16.8	43.5	19.6	41.6
女性	計	17.6	9.0	13.0	11.8	41.9	31.1
18-19歳	11.4	8.9	13.9	10.1	41.8	16.5	25.3
20-24歳	17.6	11.2	16.5	12.2	47.9	17.0	40.4
25-29歳	19.8	7.3	9.9	12.1	37.1	17.7	25.4

	いろいろな経験をすることができた	社会的に認められていないと思つた	生活が不安定だった	自由な時間が持てた	正社員に比べて収入が少なかった	無回答	N
計	54.9	16.6	28.9	42.9	31.9	0.6	499
男性	18-19歳	43.6	11.5	17.9	29.5	2.6	78
20-24歳	55.1	14.0	26.6	41.5	31.9	0.5	207
25-29歳	58.9	21.0	35.0	49.1	34.6	0.0	214
女性	計	59.7	14.6	20.0	51.1	0.6	499
18-19歳	55.7	6.3	10.1	34.2	21.5	1.3	79
20-24歳	61.7	16.5	23.9	55.3	32.4	0.0	188
25-29歳	59.5	15.9	20.3	53.4	33.6	0.9	232

資料出所：労働政策研究・研修機構（2006）

4. フリーターからの離脱

次に、正社員になろうとした割合（離脱行動）についてみよう（図表3-15）。東京と比較すると北海道は高く、特に30代前半の男性は88.9%が正社員になろうとしたことがあると回答している。女性は男性に比べると低いですが、それでも20代後半の女性の68.6%が正社員になろうとした経験を持っている。

また学歴別にも差異が見られ、学歴が高いほうが離脱を試みている。特に女性の場合に差が大きい傾向がある。なお釧路の対象数は少ないが、やや札幌よりも釧路の方が離脱をしようとする割合がやや高くなっている。

年齢があがると、フリーター離脱行動が高まるというのは東京と共通しているが、北海道の若者の方が離脱を試みる割合が高くなっている。学歴についても、高学歴の方が離脱を試みる割合は高いが、特に北海道の高等教育進学者では高い。なお図表は省略するが、親学歴や経済的豊かさによる離脱行動の違いはほとんど見られなかった。

図表3-15 フリーターからの離脱

	東京	北海道		東京	北海道
男性	**	77.3	女性	**	60.4
20-24歳	45.9	60.0	20-24歳	34.0	51.3
25-29歳	67.3	86.5	25-29歳	45.3	68.6
30-34歳	**	88.9	30-34歳	**	59.4
札幌	**	75.7	札幌	**	62.7
釧路	**	85.7	釧路	**	48.0
高卒以下	45.5	72.7	高卒以下	29.3	52.9
高等教育	57.6	83.1	高等教育	43.4	68.9
夢追求型	66.7	33.3	夢追求型	40.9	59.1
モラトリアム型	73.0	27.0	モラトリアム型	54.2	45.8
やむを得ず型	93.2	6.8	やむを得ず型	75.4	24.6

正社員になろうとした時にしたことを自由記述からみると（回答が少ないので非典型全体の数値を示した）、記述があったのは192人であったが、面接・試験を受けたのが67人、ハローワークへ行ったのが29人、求人情報誌等で仕事を探した者が25人、正社員への登用が26人、勉強をしたのが27人、その他12人、特に何もしていないが11人、となった。

なぜ正社員になろうとしないのか、自由記述で尋ねたところ、22名の回答があった。うちもっとも多かった（5名）のが、「自由な時間が欲しかった。（22歳・男性）」など、時間に関するもの、次に、「正社員にしてもらえない。（26歳・男性）」が4名、「夢があるから（26歳・男性）」3名であった。これらの回答だけでは何とも言えないが、「正社員になりたくない」明確な理由があるわけではないことがうかがえよう。

さて東京調査で発見された知見のひとつに、フリーター期間が離脱に影響するというものがある。すなわち、フリーター期間が半年以内だと離脱に結びつきやすいが、1年を超えるとモチベーションが下がるのではないかというものである。

北海道についてみると（図表3-16）、男性はフリーター期間が6ヶ月以内だと離脱行動割合は高くなっており、女性は7ヶ月から1年がもっとも高くなっている。しかしおおむね1年以内だと離脱行動割合が高くなっているようである。

図表3-16 期間別フリーター離脱志向

		なろうとした ことがある	なろうとした ことはない	合計	N
男性	6ヶ月以内	91.3	8.7	100.0	23
	7ヶ月から1年	81.3	18.8	100.0	16
	1年から2年	75.0	25.0	100.0	36
	2年から3年	72.7	27.3	100.0	22
	3年以上	71.4	22.9	100.0	35
	合計	77.3	21.2	100.0	132
女性	6ヶ月以内	71.4	28.6	100.0	21
	7ヶ月から1年	77.3	22.7	100.0	22
	1年から2年	67.9	32.1	100.0	28
	2年から3年	52.6	47.4	100.0	19
	3年以上	50.7	49.3	100.0	69
	合計	60.4	39.6	100.0	159

続いて、フリーター離脱成功割合を見てみよう（図表3-17）。

図表3-17 フリーター離脱成功率

	北海道	東京		北海道	東京
男性	59.8	**	女性	55.2	**
20-24歳	33.3	50.5	20-24歳	35.0	45.3
25-29歳	68.8	68.8	25-29歳	62.9	63.8
30-34歳	72.5	**	30-34歳	58.5	**
高卒以下	54.2	57.3	高卒以下	60.0	38.4
高等教育	64.8	60.3	高等教育	51.0	63.9
札幌	58.3	**	札幌	53.6	**
釧路	66.7	**	釧路	66.7	**
夢追求型	50.0	56.0	夢追求型	44.4	37.0
モラトリアム型	81.5	63.7	モラトリアム型	46.2	64.6
やむを得ず型	48.8	51.3	やむを得ず型	59.6	43.1

正社員になった割合は、男性で59.8%、女性で55.2%とあまり男女差はなかった。もっとも明確な差が見られるのは年齢であり、年齢が高くなると成功率も高まる。学歴については、男性では高等教育進学者の方が成功率は高いが、女性は高卒以下学歴で成功率が高い傾向が見られた。またフリーター3類型別でみると、各セルの数値が小さくなってしまいが、男性はモラトリアム型が高く、女性はやむをえず型で高かった。同様に釧路の数値が小さいため参考値であるが、釧路の方が札幌よりも成功率が高かった。

フリーター期間と離脱成功についてみると（図表3-18）、男性で3年以上が高くなっているものの、6ヶ月以内で高いという傾向は男女とも共通していた。

図表 3-18 フリーター期間と正社員離脱成功

		正社員に なった	正社員に はなっていない	無回答	合計
男性	6ヶ月以内	76.2	23.8		21
	7ヶ月から1年	61.5	38.5		13
	1年から2年	51.9	48.1		27
	2年から3年	37.5	62.5		16
	3年以上	68.0	32.0		25
	合計	59.8	40.2		102
女性	6ヶ月以内	73.3	26.7	0.0	15
	7ヶ月から1年	35.3	64.7	0.0	17
	1年から2年	52.6	47.4	0.0	19
	2年から3年	70.0	30.0	0.0	10
	3年以上	54.3	42.9	2.9	35
	合計	55.2	43.8	1.0	96

ところでフリーターから正社員への離脱経路とはどのようなものであったのか（図表 3-19）。以下ではサンプルを確保するため、男女を分けずに分析を行い、東京調査と比較することにする。

北海道では「インターネット・貼紙・新聞・雑誌」がもっとも多く、続いて「親・保護者・親戚・知人の紹介」、「ハローワークなど、公的機関の紹介」となっている。東京と比較すると、「ハローワークなど、公的機関の紹介」が多く、パートや契約社員からの登用が少ない。

この点については、非典型雇用者の具体的な将来についての自由回答（第2章 図表 2-27）においては、男性の25-34歳層の非典型雇用者の51.5%が「パート→契約→正社員」を希望していることと比較すると、実際に起こっている登用はそれほど多くはないことがわさる。

また北海道の「その他」で記入があった7名のうち、学校の紹介（専門学校・高校など）が4名を占めていた。2007年に実施した『高卒就職調査』では、地方の工業高校では卒業生に対して就職支援をしているとの回答が見られたが、わずかな数ではあるものの、地方の学校は卒業後も重要な就職チャンネルであり続けているのかもしれない。

図表 3-19 フリーターから正社員への経路

採用経路	北海道	東京
ハローワークなど、公的機関の紹介	21.9	17.4
派遣会社・民間・NPO	0.0	3.4
親・保護者・親戚・知人の紹介	25.4	26.7
インターネット・貼紙・新聞・雑誌	26.3	31.4
パートや契約社員からの登用	15.8	20.8
その他	7.0	0.4
無回答	3.5	
合計	100.0	100.0
N	114	236

フリーターを離脱しようとした際の相談相手については（図表 3－20）、北海道と東京ではそれほど差はないが「誰もいない」という回答の割合が北海道で高くなっている。「趣味をともにする友人」が東京ではやや高く、北海道では「恋人・配偶者」が高くなる傾向にある。

図表 3－20 フリーターを離脱しようとした際の相談相手

	北海道	東京
親・保護者	55.6	53.8
兄弟姉妹	12.1	12.5
職場やバイト先の上司	12.1	12.9
職場やバイト先の友人・同僚	15.2	14.8
学校で知り合った友人	20.2	22.9
学校の先生・職員・相談員	3.5	2.8
趣味をともにする友人	7.1	15.2
恋人・配偶者	26.3	22.2
カウンセラー等の専門家や公的な支援機関	2.5	1.4
その他	1.5	2.1
誰もいない	21.7	17.8

続いて離脱後の職種をみると（図表 3－21）、東京とははっきりした違いがある。東京は専門・技術の割合が高かったが、北海道は販売・営業がもっとも多くを占める。こうした職種の違いは、第1章にみるように、北海道の職種構成の反映であることがうかがえる。

図表 3－21 離脱先の職種

職種	北海道	東京
専門・技術的な仕事	14.0	30.2
事務の仕事	19.3	10.7
販売・営業の仕事	30.7	20
サービスの仕事	21.1	13.5
生産工程・建設の仕事	7.0	8.7
運輸・通信・保安の仕事	3.5	7.6
その他	2.6	9.6
無回答	1.8	0
合計	100.0	100.0
N	114	245

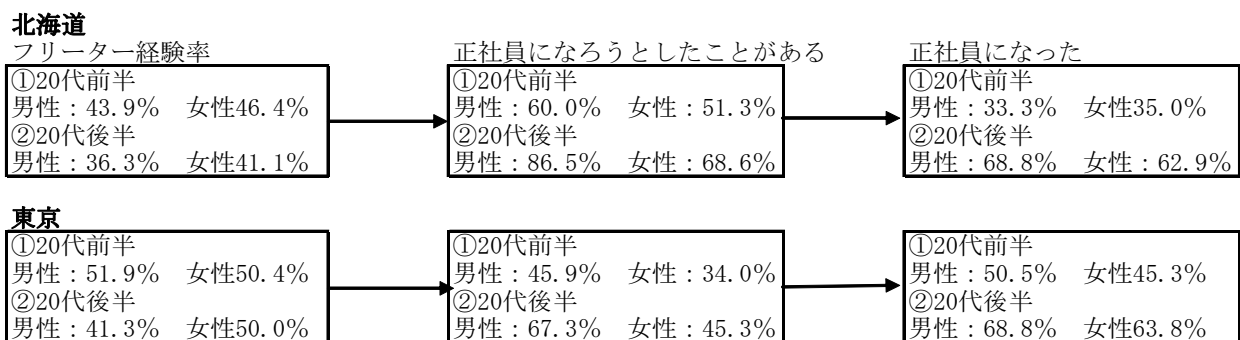
次に企業規模を見る（図表 3－22）。東京の方が企業規模が大きいような気がするが、実際は逆であり、北海道の離脱先で企業規模が大きい企業の方が多い。この理由はよくわからないが、離脱できるのであれば比較的規模の大きい企業ということになるのであろうか。

図表 3-22 離脱先の企業規模

	北海道	東京
1000人以上	16.7	12.6
300～999人	17.5	9.7
30～299人	38.6	31.4
29人以下	26.3	45.5
無回答	0.9	0.9
合計	100.0	100.0
N	114	245

5. まとめ－フリーターへの経路と離脱

図表 3-23 北海道におけるフリーターへの経路と離脱



- ① 「フリーター」についての認識は東京都とは異なっている。東京では契約社員や派遣社員もフリーターと認識される場合があるが、北海道ではパート・アルバイト労働者に限定して「フリーター」が捉えられている。
- ② フリーターの経験率は、男性で 34.7%、女性で 41.8%となっており、女性では高卒以下の層はフリーターになりやすい傾向が見られる。また経済的に豊かでないほど、フリーターになる割合は高まり、女性で特に高い。
- ③ フリーターになった理由や契機からフリーターをタイプ別に見ると、「やむをえず型」が東京に比べて多く、女性で特に顕著であった。
- ④ 正社員への離脱行動をみると、年齢が高まるほど離脱行動割合が高まり、特に 30 代の男性のほとんどが離脱を試みようとした経験をもつ。学歴が高いほど、離脱を試みる割合が高い。またフリーター期間が長いほど離脱行動をするわけではなく、1年以内に離脱行動が起こされていることが多い。
- ⑤ 正社員への離脱が成功する割合は、男性で 59.8%、女性で 55.2%となっており、性差はあまり影響していない。また男性は年齢が高まるほど成功率も高まるが、女性は 20 代後半に高まった後にやや低下する。学歴別には男性は学歴が高いほうが成功率は高いが、女性は学歴が低い方が成功率は低くなっている。

- ⑥ フリーターから正社員への離脱に際しては、特に東京と比較して公的機関の利用が多く、正社員への登用が少ない。また離脱後の職種をみると販売・営業がもっとも多くを占め、比較的企業規模の大きい企業へ就職している。

以上から、政策への示唆を整理する。

第一に、離学直後の正社員比率と社会階層の関係について検討した際には明瞭ではなかったが、フリーター経験に限定して分析すると、特に女性において社会階層の影響がうかびがあった。すなわち卒業時には明確ではなかった社会階層の影響が、移行プロセスの中で強まっていくことを示唆される。離学時点では社会階層の影響を打ち消す何らかの効果が働いているのに対して、移行プロセスの中では社会階層の影響を弱めるようなメカニズムが弱まってしまっていると解釈できる。社会的公正の観点からすれば、学校を離れたあとでも社会階層の影響を弱めるような支援が求められる。特に低学歴者に対する公的支援の積極的な働きかけは重要であろう。

また女性は学歴によるフリーター経験の差が大きいことから、高卒女性に対するより高い学歴へのウォームアップと経済的支援は重要だと思われる。ただし離脱成功率をみると、高学歴女性に見合う仕事はまだ地方都市には少ないのではないかとも思われ、モチベーションを高めれば問題が解決されるというわけではない。

第二に、北海道では、フリーターから正社員になる際に、東京に比べてハローワークの利用率が高くなっている。また数は少ないものの学校の利用についても語られている。こうした知見は、公的機関や卒業後の学校の支援は、地方においては大変重要であることを物語っている。この点は第一の点とあわせて、雇用情勢の厳しい地域での公的機関の必要性を示すものである。

第三に、東京と比較すると、まだフリーター経験率は高くはなく、フリーターからの離脱行動の割合も高いため、東京とは異なりフリーターの支援の焦点は離脱成功にある。学歴やフリーター期間の長さが障害となっているが、大きな要因は需要不足によるものであろう。

なお同一のアルバイト先での就業が正社員への就職にはプラスという玄田（2008）の知見を本稿の知見と比較検討してみると、アルバイト先を転々とするよりは同一のアルバイト先の継続が正社員への離脱にはプラスだが、フリーターを長く続ければ正社員に結びつくというわけではないということであろうか。

本調査の実施時期は全国的には雇用情勢がよかった時期であるにもかかわらず、第1章で見たように北海道では需要が限られていた。こうした地域においては、フリーターに対する働きかけだけでは問題は解決しない。需要不足を補いつつ、不安定雇用の若者層を継続的に支える支援が求められる。